

## 【2種類の肺炎球菌ワクチン【23価と15価】

《シニア用の23価肺炎球菌ワクチン》（ニューモバックス）定期接種（約半額助成）

65歳の1年間に1回のみ定期接種となりました。令和5年度までは、5歳刻みで70、75、80、85、90、95と100歳も定期接種でしたが、昨年度3月で終了しました。

65歳の人だけが定期接種です。以前に接種している人も定期接種になりませんが、5-7年後に任意接種はできます。

《乳幼児用の15価肺炎球菌ワクチン》（バクニューバンス）任意接種（有料）

も65歳前後で推奨されています。まだ任意接種ですが、免疫細胞（リンパ球）に作用して長期の免疫持続が期待できます。65歳未満でも肺炎に罹りやすい人には接種できます。

2種類の肺炎球菌ワクチンの使い方、より有利な接種方法と順序と間隔について説明します。

15価を先に接種すると免疫効果が高まり、その後に23価を追加した時にも、より高い免疫が期待できます。初回23価を接種後、5-7年で2回目の23価を追加した時よりも高い免疫ができます。23価を追加接種する前に15価を接種するように計画しましょう。

◆ 23価を接種してあれば、1年以上あけて15価を接種する。2回目の23価を追加する時は、さらに1年以上あけて、且つ23価の1回目から5年以上あけて追加する。

多くの方は、23価を済ませていますから、今後はこのうち方で接種しましょう。

◆ 15価を接種して、1年以降に23価を接種する。それ以降の追加接種は不要です。

### 【推奨される接種方法】

① 15価（1年以降）23価 【更なる追加接種は不要と考えられています】

1) 23価の定期接種を計画している人は、その1年前に15価を任意接種する。

その後23価を65歳の定期接種期間内にして終了。

② 23価（1年以上開けて）15価（1年以上かつ1回目の23価から5年あけて）23価

2) 23価を65歳に定期接種する。その5-7年後に23価で追加する。定期は1回のみ。

3) すでに23価を接種している方で、5年経って2回目の23価を接種する前には、先に15価を接種して、1年後に23価を任意接種で追加して終了。

③ 15価（8週間あけて）23価 【脾臓摘出時や免疫低下などで感染リスクが高い時】

4) 脾臓摘出後での免疫低下時の肺炎球菌ワクチンは、23価は保健適応されます。この時にも15価を先に接種して、8週間以上開けて23価を接種すると有利な効果が期待できます。

15価よりも効果的な20価の肺炎球菌ワクチンが、乳幼児用には認可されましたが年配者用にも準備されています。まだ認可されていないので利用できません。20価が認可されると20価のみ1回の接種になると思います。

名鉄病院予防接種センター

☎(052) 551-6126、[時間外]551-6121